

令和6年度 第1回大船高等学校 学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和6年6月14日(金) 13:45~15:30

2. 場 所 県立大船高等学校 応接室

3. 出席者 (委員) 幸田 隆(校長)
(敬称略) 太田 洋(鎌倉市立大船中学校長・有識者)
稲葉 守太郎(P T A会長)
黒澤 全匡(同窓会長)
喜田 薫博(高野台自治会長)
小林 端幸(鎌倉市こどもみらい部)
五十嵐 郁枝(地元企業)
(事務局) 加藤 玲子(副校長)
金子 哲子(教頭)
篠田 哲夫(事務長)

欠席者 2名

4. 議 題

(1) 委員の委嘱について

(2) 学校長挨拶

- ・今年度も様々のご意見を賜り、学校運営に反映させていきたい。
- ・体育館の床面工事について説明
- ・運営協議会設置要綱が変わり有識者2名となった。

(3) 委員 自己紹介

(4) 校内生徒活動視察 白帆祭(文化祭)の見学を行った。

(5) 協議

ア 令和6年度 学校運営協議会の運営について

設置要綱の変更(有識者2名)となったことを説明。

イ 令和6年度 大船高等学校の取り組みについて

本年度の取り組みについて学校評価報告書(目標設定)を用いて具体的な方策を説明。

質疑応答

稲葉委員:昨年度より白帆祭を見学しているが生徒が楽しそうに活動している。

今後の日程を教えてほしい→配布資料名簿裏にて確認

喜田委員:生徒が生き生きしていてとても良い。

道路で転ばれた方を大船高校の生徒が対応していて素晴らしい。

小林委員:生徒が生き生きしていて、仲間との一体感がある。

部活動の加入率90%を目指している中で86%の加入率はとても良い。

何か取組を行っているのか、また残りの10%は何をしているのか気になる。

地域の人材はどれくらい入っているか。

幸田校長：数年前は文化部主体であった、その後運動部の柱になる人材をかけあい専門の指導者が入ってきた。これにより生徒が入学前から部活を希望している。

残りの10%は部活とは違う外部団体に所属したり、予備校等に通っている。

地域移行について高校はまだ動いていない。部活動指導員やインストラクターなどの人材が入ってきている。インストラクター等は15名である。

黒澤委員：生徒がとても楽しんでいる。生徒主体での行事と感じられる。

外部の指導者はお金が出るのか。→出る

校内のホコリが気になる、目標設定にもあるので徹底して行ってほしい。

大時計が壊れているのが気になる。手立てを考えていただいて、どうにか同窓会も協力していきたいと考えている。

幸田校長：当時の業者がないため修理が厳しい。何らかの手立てを考えていきたい。

太田委員：大船高校卒業生であるが変わっていない。大船高校の特徴的な場所が大切にされ、使用されている。

目標設定の中で多様性等の言葉があまり入っていないが、大船高校の生徒を見る限り共に生きていくことを理解しているように見える、改めて義務教育の大切さを感じた。

いつから文化祭と体育祭を同年で行うようになったのか。

不登校は何%か？

幸田校長：10期あたりで両方を同年で行うようになった。大船高校としては行事も学びも頑張るといことで両方を同年に行っている。

不登校に関しては気になる生徒は各学年7～8人くらいいる。大船高校に入学してから不登校ではなく、中学校から継続して不登校になるケースが多い。

五十嵐委員：生徒が企画しよく頑張っている。

進路を決めるのは2年生からできているのか。また理系の生徒はどの位いるのか。

幸田校長：紆余曲折はあるものの、担任や進路がサポートし対応している。

理系を目指している生徒は増えてきている。

(6) その他：特になし